

第10回アンチキルケばか詰作品展

解説編

開 催： 平成18年 7月 1日

解答締切： 平成18年 7月25日

解答発表： 平成18年 8月 1日

たくぼんの解図日記

<http://takubon-tumeshougi.269g.net/>

アンチキルケばか詰入門

<http://www2.dokidoki.ne.jp/takuji/tumeshougi/AntiCirce.html>

梅雨の長雨が終わったと思えば、日差しのキツイ夏が本番となってきました。

始まる企画もあれば終わる企画もありということで、アンチキルケばか詰作品展は今回を持ちまして定期開催を終了します。投稿いただきました作家の方々、解答いただきました解答者の方々、閲覧いただきました方々・・・本当にありがとうございました。

とはいえ折角、アンチキルケばか詰の灯を消すわけには参りませんので、投稿作品が集まり次第、臨時作品展を開いていきたいと思っています。というわけで引き続き投稿作を受付けますので宜しくお願いします。何作か集まった時点で、開催日を決定し、募集期間も設けて開催したいと思います。

アンチキルケばか詰作品展は、当初私もこのルールがよく分からず勉強の為に入門編を書いたのがきっかけで始まり、回を重ねて10回までたどり着きました。毎回毎回送られてくる作品に感心したり感動したり、担当はかなり激務でしたがそれ以上に勉強させていただきました。しかし毎回時間に追われての作稿でミス連発してしまい、本当に申し訳ありませんでした。やる以上きちんとやらなければいけなかったと反省しております。(本当かいな?)

【データ】

開催回数：10回

発表作品数：128題

発表作者数：16名

発表数ランキング

順位	作者名	発表数
1	たくぼん	23
2	吉川慎耶	17
3	北村太路	16
3	若林	16
5	もず	13
6	神無七郎	9
6	太郎@神無一族	9
8	小峰耕希	8
9	伊達 悠	5
10	橋 圭吾	4
11	縫田光司	2
11	ぶら	2
11	ゆあん	2
14	萩絵香木	1
14	小五郎	1
14	冬眠蛙	1

*10回皆勤は若林・たくぼん

原さんとか縫田さんとかぶらさんとか懐かしいですね。

解答者数：17名

解答成績ランキング(全128題)

順位	作者名	自力正解数
1	橋本孝治	128
1	若林	128
3	隅の老人B	126
4	もず	110
5	小峰耕希	94
6	北村太路	93
7	吉川慎耶	87
8	小五郎	67
9	伊達 悠	66
10	橋 圭吾	51
11	原 亜津夫	31
12	冬眠蛙	29
13	縫田光司	24
14	ぶら	20
15	痲癩老人	12
16	太郎@神無一族	6
17	KAMU	4

*10回皆勤は橋本孝治、若林、隅の老人 B、北村太路、小峰耕希の5名

*解答一番乗りは、
若林 (5) 橋本孝治 (4) 隅の老人 B (1)

それでは始めます。

今回のコーナーは以下の通りでした。

- ・短編の部 (3～15手) …4作
- ・中編の部 (17～49手) …2作
- ・アンデパンダンの部…3作

出題： 2006年 7月 1日

解答締切： 2006年 7月25日

解答発表： 2006年 8月 1日

【アンチキルケばか詰ルール説明】

当ホームページのアンチキルケ入門をご覧ください

【注意】

スペースの関係で敬称は略させていただいております。

ご了承下さい。

なおこの出題は「正式発表」扱いとし Fairy TopIXの
対象です。

作品展・短編の部

短1. たくぼん 作

アンチキルケばか詰 5手

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
毎		銀				駒				▲なし
										一
										二
			王							三
										四
										五
			角		飛					六
			進							七
										八
										九

【詰手順】

5五角 6三玉 7三銀成 同飛/8二飛 7三角成
迄 5手詰

【評価】

自力正解者…7名

A…1、B…5、C…1 平均点…2.00(1位)

お気に入り投票 : 1

【解説 (のようなもの)】

この作品の創作日は昨年(2005年)の11月。アンチキルケばか詰作品展の初期の頃の作品。良くも悪くもないのでそのままお蔵入りしていたものを数が少ないということで緊急当番!

平均点も普通でした。しかあ〜し! 若林さんの短評を見て愕然!

9一角は不要駒! ありゃ〜7三を守っているのは9一角ではなくて7八飛だったとは・・・

私同様、騙された解答者が多かったようです。

最後の最後まで私らしいというか・・・ _|_|○

【短評】

隅の老人 B

「決め手の前の、下準備。 員数合わせ?、ご謙遜。
面白いですよ、たくぼんさん。B」

若林

「ふわっとした配置。飛車を 51 から外す作意だとと
格好いいけれど、普通に銀捨てして幕。かしこの超短
編手筋ものみたいな感触。しかし、短編の解図中一番
考えた 91 角の存在が不要駒なのは思わず笑ってしま
いました。失敬。C」

★ふふふ誰も不要駒だとはわかるまい・・・作者も
ですが

橋本孝治

「邪魔な 2 枚の利きをいっぺんに消す 4 手目が妙
手。”手筋もの”の気持ちの良さが味わえる作品です。
B」

★う～ん 9 一角の利きは関係なかった・・・

小峰耕希

「作者の事だから、きっと 77 角を 55 に飛び出すの
だろうと決め付けて解いたみたら案の定。B」

★私もそう思いました

北村太路

「8二が最初銀で埋まっているのがさりげなくてい
いですね。解けませんでした。A (FM 使用)」

★私の作品で今回唯一の A・・・あ～額に入れて飾っ
ておこう。

小五郎

「見た目のきれいな対子図式。」

★あっ本当だ！意識して創ったことは 1 回もないです。

はい

もず

「詰め上がりは見えやすいですが、この駒数ででき
たのは良かったと思います。B」

★もう 1 枚減らせました (泣)

伊達 悠

「たくぼんさんらしい解答ですね。B。」

★作風は隠せませんね

短2. たくぼん 作

アンチキルケばか詰 5手

				9	8	7	6	5	4	3	2	1	
							王	金					▲なし
													一
													二
													三
												馬	四
													五
													六
													七
							香	成					八
王												王	九

【詰手順】

5一香成 5九玉 5二飛 5一と/5三と
5八馬 迄 5手詰

【評価】

自力正解者・・・7名

A・・・1、B・・・5、C・・・1 平均点・・・2.00(1位)

お気に入り投票 : 3

【解説 (のようなもの)】

この作品も緊急当番。今年の1月に創作したもので
す。初手の駒取りを何とかすれば 1 9 や 9 9 のと金も
何とかなつたでしょう。何とかなるかしらん。

4 二歩成 迄 1 3 手詰

【評価】

自力正解者・・・6 名

A・・・0、B・・・4、C・・・1 平均点・・・1.80(4 位)

お気に入り投票 : 0

【解説 (のよなもの)】

3 番の派生作です。3 二飛を龍にすると 4 三歩を取って 8 二に復活する筋も出てしまうのですね。これは 2 解問題とは言えないですね。

本作は 3 番と異なり飛車にも取らせませす。あとはお約束の収束です。アンチキルケばか詰を創ったことがある人は見たことがある収束でしょう。私も同一収束の作品があります。持駒歩 6 枚ですのでこれは一つの完成品でしょう。

【短評】

隅の老人 B

「短 3 を創っていて、もう一つ出来ました。こちらの詰上がりは、如何にもキルケですね。B」

若林

「短 3 には劣りますが賑やかしのつもりでした。この収束を逆算すること自体が今見るとダサイですねえ。C」

★収束よりの逆算？とは驚きです。

橋本孝治

「前局のことがあるので、いろいろと凝った順を考えたのですが、一番素直な手順が作意…。二重に裏をかかれました。B」

★順番が違いましたかね

小五郎

「前問と同じく 42 玉から 43 歩がポイントですね。」

もず

「この詰め上がりはこれまでにありましたっけ。見覚えはないのですがなぜか既視感のある手順です。B」

★作品は無い気がします。

伊達 悠

「前作とは違って意外にあっさりと解けました。全部左に持ってくるのでは？と思うと、後は一直線。B。」

★姉妹作を解いていると意外と難しい方からとける場合がありますね

.....

【総評】

隅の老人 B

「お気に入り→短 2。 たくぼんさん、またまた首位。 カーブも見習って欲しいですね。巨人より上位なら、ファンは納得？フレフレ、カーブ。フレフレ、たくぼん。」

若林

「お気に入り：なんか皆さん選ぶのに困りそうな。私も困っていますが、強いて言うなら短 3 ですが……やっばりなしで。」★ (集計には加えました)

橋本孝治

「お気に入り” 短 1. たくぼん作”」

もず

「短編のお気に入りには 2 番で。露骨ですが、私はこういう手順が好みです。」

伊達 悠

「お気に入り；皆勤賞の若林さんには申し訳ありませんが・・・・・・ 2 番です。簡単でしたが手順の構

成が見事でした。」

【解答成績】

解答者名	1	2	3	4
隅の老人 B	○	○	○	○
若林	○	○	○	○
橋本孝治	○	○	○	○
小峰耕希	○	○		
小五郎	○	○	○	○
北村太路	△	○		
もず	○	○	○	○
伊達 悠	○	○	○	○

*△は FM 使用

解答者数 8名 うち全題自力正解者 6名

全題自力正解者は6名と前回と同じ。

【お気に入り投票・結果】

今回のお気に入り投票は投票総数・・・5

順位	No.	作者名	投票	無	A	B	C	平均点
1	2	たくぼん	3	1	1	5	1	2.00
2	3	若林	1	3	0	5	0	2.00
3	1	たくぼん	1	1	1	5	1	2.00
4	4	若林	0	2	0	4	1	1.80

※ 順位はお気に入りポイント順（同点の場合は平均点上位順）

☆お気に入りトップは 2 番たくぼん作です。A は1つですから複雑な心境です。

過去最低のレベルの争いとなりました。

次回帰ってきたアンチキルケばか詰作品展では皆様の好作をお寄せ下さい。

作品展・中編の部

中 1. たくぼん 作

アンチキルケばか詰 21手

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
				零						▲金
詰									詰	一
										二
										三
										四
										五
				二	二	二				六
							歩			七
										八
				王						九

【詰手順】

5八金 4九玉 4八金 5九玉

4七金/4九金 6八玉 5八金 7八玉

6七金/6九金 6七玉 5八金 7八玉

5七金/6九金 同玉/5一玉

5二歩 同龍左/8二龍 5二歩 4二玉

4三歩 4一玉 4二歩成 迄 21手詰

【評価】

自力正解者・・・4名

A・・・0、B・・・2、C・・・1 平均点・・・1.67(2位)

お気に入り投票 : 1

【解説 (のようなもの)】

いつものように数あわせで即興で創り上げたものです。と金3枚を奪うまでは納得いくところですが、さすがに収束は目も当てられない。橋本案の美を追求する方がよかったですね。

【短評】

隅の老人 B

「キルケで財産づくり、念願が叶って、故郷に帰る。

B」

★財産と言っても歩ばかりでは現実と一緒にか・・・

若林

「なるほど、38歩一枚で限定できるものですね。B」

★無ければもっといいんですが・・・そういうわけにはいかないです

橋本孝治

「左右の限定に61金と38歩の2枚を使うのは、あまり感心しません。22龍82龍型にして61金を省くべきだと思います。(短4と同じ収束ですが気にする必要はないかと。)」

★同意です。もっと考える必要があったですね。

小五郎

「三枚のと金の取り方がパズルのようで難しい。特に頭3手が遠回りしているようで時間がかかりました。」

★その後の作り方を工夫するべきでした

北村太路

「と金を3枚全部取るとは思ってなかったのですが、面白いか、と言われると、うーん。収束もありがちな気が。評価：C (fm使用)」

★う～む歩3枚での収束はどうしても・・・

伊達 悠

「これで手順限定！すごいです。トリッキーな手順で三枚の歩を取りに行く手順はお見事というほかありません。A。」

中2. 橋 圭吾 作

アンチキルケばか詰 23手

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
		皇		手		手				▲なし
				龍	龍	飛	龍	龍		一
		飛	龍		龍					二
		皇	龍	龍				飛		三
										四
										五
		龍		玉		歩				六
		王			銀	飛	龍			七
		飛		歩	歩	龍	龍			八
						龍				九

【投稿時の作者コメント】

23手で今回は投稿したいと思います。とりあえずもず氏(?)の宿題は満たしましたし…今回は諦めたいと思います。検討・修正ありがとうございました。作品展ではたくぼんさんとの合作の形にして頂ければと思うのですが…。三回はまたの機会にしたいと思います。

【詰手順】

6六銀 7七銀 同銀/7九銀 5七馬
 8八銀 同馬/2二馬 8六銀 8八玉
 9五銀 8四馬 同銀/7九銀 9七玉
 8八銀 同馬/2二馬 7九角 8八桂成
 同角 同馬/2二馬 8八飛成 9六玉
 8五龍 9七玉 8九桂 迄 23手詰

【評価】

自力正解者・・・3名

A・・・2、B・・・1、C・・・0 平均点・・・2.67(1位)

お気に入り投票 : 2

【解説 (のよなもの)】

原案は序にもう1回7九銀の原形消去が入っていて7九銀の原形消去3回の25手と言うすごい作品でした。しかしどうしても余詰が消えないので最後の作品展に間に合わせる為に2回の23手詰で発表となりました。作者コメントはこの事を言っています。私と作者でメールのやり取りをすること約1ヶ月。なんとかここまでたどり着いたという感じです。

ストーリーは初手6六銀として銀の入手と馬の移動を行い、8六銀以下馬の入手を図る。しかしこの時7九に銀が居ると馬が入手出来ない為、7九銀を原形消去しておく。角を入手したら7九角と打って桂を入手したいのだが、今度は角を打ちたいところに銀が居て打てないので、2回目の銀の原形消去を行なう。そして角を打って桂を入手して収束となっています。銀の原形消去の意味づけは違っているんですね。

手順は言うことなし！配置は時間があればもうチョット何とかしたい気もしますがともあれ作者に拍手です。

【短評】

隅の老人 B

「キルケらしい手が続くが、少し単純。仕掛けも大きすぎますね。でも、解ければ嬉しい、これが解答者の気持ちです。B」

★単純は考えようによっては利点。仕掛の大きさは懸案事項。解答者が喜ぶのは作者冥利につきます。

若林

「いかにも意欲作、という配置。盤面を見てじっくり考える。やはり83飛を世に出すのだろう。この形で駒取りに使えるのは銀。流石にこの配置で51に戻ったら笑うしかないので96桂の奪取に目処をつけて解決。

なるほど、納得の手順。4回に渡る馬の居食いと、もう一枚の馬のスイッチバック。A」

★作者の意図は充分伝わっているようでよかった。

橋本孝治

「必要に応じ角を何回でも入手できるこの構図、かなり発展性があると思います。呼び出しはがしなども組み合わせられるかも。本局では桂の入手をもう少し凝って欲しい気がしました。」

★是非七郎さんの趣向作で次回お願いします。

北村太路

「圧巻の銀2枚只捨。本当になんでもできるもの。これをものにした作者にはひたすら頭が下がります。この作のために作品展は開かれていたのかもしれない。最高級の作品。評価：A (fm 使用)」

★最大の賛辞！橘さんよかったですね

伊達 悠

「これはいったい何なのだろうか。桂馬一枚をとるためにこのような手順を踏まないといけないとは。超長編の手順はこのようなものではないだろうか。いうことなし。A。」

★目的は意外と桂を取るだけなんです、それに至る手順が素晴らしい

.....

【総評】

隅の老人 B

「お気に入り→中1 短に続いて、たくぼんさんの首位。連勝馬券は、2-1。配当は元返し。たくぼんさんが、強すぎた。」

若林

「お気に入り：中2。」

北村太路

「お気に入り：中2」

伊達 悠

「お気に入り・・・・・・これは歴史に残す価値あり。2番でしょう。」

【解答成績】

解答者名	1	2
隅の老人 B	○	○
若林	○	○
橋本孝治	○	○
小峰耕希	○	○
小五郎	○	
北村太路	△	△
もず	○	○
伊達 悠	○	○

△ はFM使用解答

解答者数 8名 うち全題自力正解者 6名

全題自力正解者は6名でした。

【お気に入り投票・結果】

今回のお気に入り投票は投票総数・・・4

順位表

順位	No.	作者名	投票	無	A	B	C	平均点
1	1	橋 圭吾	3	1	3	1	0	2.75
2	2	たくぼん	1	1	1	2	1	2.00

※ 順位はお気に入りポイント順

今回は文句なく橋作がトップでした。

アンデパンダンの部

ア1. 小峰耕希 作

アンチキルケ打歩ばか詰 5手

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
▲										飛
二										歩
三										
四										
五										
六										
七										
八										
九										

【ルール注意】

必ず最後は打歩で詰ますアンチキルケばか詰です

【投稿時のコメント】

フェアリーの恩人の窮状を放っておく訳に行かないので、無理矢理アンチキルケ打歩協力詰の裸玉を捻り出しました。もし僕の情報収集不足で前例があったらごめんなさい。

【詰手順】

3一飛 2四玉 2一飛成 1三玉 1四歩
迄 5手詰

【解説 (のようなもの)】

数不足に呼応してくれた作者には心からお礼申し上げます。

アンチキルケ打歩ばか詰の裸玉はリストを作っていないですが前例は無いはずです。

解くのは簡単ですが唯一解ということに意義がありそうです。手順も飛車に引き寄せられる玉が不思議な

感じで楽しめます。

【短評】

隅の老人 B

「遠飛打に近づく玉、79 玉から始めたら？、たぶんダメ。おかしなことを、考える。」

★4六玉の7手詰の時点で3解ありますね

若林

「裸玉ならまあありかも。ちょっともの足りず。同じ35裸玉の打歩なら持駒銀銀歩で#9を採りたいですね。」

★それはそれで別の作品として好作と思います。なかなかいいですね

橋本孝治

「今回の作品展で最初に解いたのがこの作です。目に入ったら反射的に解きたくなりますよね。」

★条件反射とでもいいでしょうか？普通詰将棋だとそっぽを向きますが・・・

小峰耕希

「投稿時にも書きましたが、たくぼんさんが作品不足で困っているのと事だったので、締め切りぎりぎりに捻り出した物。その状況の中では裸玉+限定打+成生限定とうまく出来た方じゃないかと思います。因みにこの図、例えばルールをアンチキルケ協力詰にして持駒を飛香のようにすると余詰みます（香以外の前方に効く駒も同様）。乞うご研究！」

★飛+銀が3解と一番解が少ないです。

小五郎

「玉が竜の引力に引き寄せられたかのような手順。」

北村太路

「内容は無し。」

★そんなにはっきり言わなくても・・・

もず

「さすがに簡単ですが、裸玉ですのでOKでしょう。」

そうそう！OKでしょう

伊達 悠

「これは・・・原理図だ！・・・いや、悪い意味ではなく。」

★作者もそう思っていると思います

ア2. 伊達 悠 作

アンチキルケ打歩ばか詰 11手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
					銀			玉	一 ▲飛
									二 金
									三 二銀
								馬	四
									五
									六
				歩	馬	歩			七
				龍	王	弓			八
				桂	桂				九

【ルール注意】 かならず最後は打歩で詰ますアンチキルケばか詰です

【投稿時のコメント】

この持駒にこの手数で余詰まないのは幸運でした。前回よりちょっと難解かも知れません。

【詰手順】

6九銀 同龍/8二龍 6八金 同角生/2二角

5二飛 5九と/5三と 4八金 同角成

5三銀成/7九成銀 5五角 5九歩

迄 11手詰

【解説 (のよなもの)】

本作は傑作です。狙いは詰上がりとそれまでの手順ですが、まず詰上りを説明しておきましょう。最終手5九歩を同馬と取ればどうなるのでしょうか？

同馬と取れば2二馬と復活して逆王手が掛かります。この時同王は5九が抑えられているので出来ませんが、そうすると2八に復活して8二龍の利きが1二まで届きますので×。ですから2二馬と復活したら詰んでしまいます。これは打歩ではないため禁手というわけで5九同馬と取ることが出来ないのです。ゆえに5九歩までの打歩詰となります。あ～ややこしい。でもそこ至る手順も秀逸です。

最後の骨子と成る8二龍は2手目で復活させるし、2二に地点も一旦生角で埋めておき最後に移動合で動かし最終手同馬を禁手に誘導しているし、歩の入手もアンチキルケ復活を利用しているし、銀成も限定だし文句無いですね。

小峰さん渾身の一作でしょう。

【短評】

隅の老人 B

「法則問題は難しい。最終手の解説で、たくぼんさんも悩む。歩の入手と、その歩を使う場所確保は、巧みなアンチ方法でした。」

★法則問題は一番苦手です

若林

「主眼は最終形ですね。北村手筋まで含めた法則系。歩の入手ルートもアクロバティックで面白い。打歩ならではの好作だと思います。」

橋本孝治

「これは凄いですね。詰上りは"間接北村手筋"とで

も呼べば良いのでしょうか。陰の主役 82 龍を復活で配置したり、4手目と8手目を生と成で対比させたり、”53と”を取る前に一拍置いたりなど、凝りに凝りまくっています。傑作。」

★私の肩こり同様凝りに凝っています。どれだけの方がそれを理解できるか？

小峰耕希

「テーマは"北村手筋を詰上りに隠し味として使用する"。創作(逆算)方針としては、①詰上りに不要な駒は置かない。②詰上りに必要不可欠な受方の龍と、一旦22に不成で復元し最終的には55に移動合をする角は、初形では初期位置に置かない。もし出題図で龍が2段目にあったりすると狙いが透けて見えるし、2手目で復元させた龍が詰上りで役に立つのは悪くない伏線だと思う。自分としては悪くない物を作ったつもりなんです。解答者はどのように感じるのでしょうか？ 特に橋本さんと若林さんの見解に興味があります。あともう1つ、本局は実質的に協力自玉詰になっている訳で、自玉詰系が出題されない本作品展の中にあっては、双玉打歩協力詰は重要な一分野になりうると思うのですが、これも皆さんの見解を伺ってみたい気がします。」

★自玉詰系の発表場所が増えればと思います。私は無理！

小五郎

「二枚の角の成と不成。引き戻した角をまた移動合させるなどストーリー性に富んでいて楽しい。」

★これを解いてくる小五郎さんの実力には脱帽です。

北村太路

「これも法則系でしたか！内容は難しすぎて私の理

解を超越しています。なんかすげー事は間違いない。
動いた駒も全部生きてて意味があるし。作者はどこか
ら組み立てていったんでしょう？なんかすげー。(fm
使用)」

★すげー連発ですね。興奮が伝わってきます。

もず

「密度の高い攻防ですね。22に角が復活したところ
で82龍の利きが止まったので飛を51から打つもの
と思ったのですが、さらにそこからひとひねりあるとは
予想外でした。」

★5二飛の意味づけが深いので難しい～

伊達 悠

「たとえば・・・・・・超難解作だ！パラの”七色
星団の戦い”、いやそれ以上のものを見せていただきま
した。最高の作品だと思います。」

★TOPIXの有力候補とっていいでしょう

ア3. たくぼん 作

アンチキルケばか詰 9手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
			飛		飛				▲なし
									一
									二
									三
									四
				王					五
									六
									七
		桂							八
						桂			九

【詰手順】

4七桂 5四玉 6六桂 6三玉

5五桂 6二玉 7四桂 7一玉

6三桂生 8一玉 8二桂成 迄 11手詰

【解説 (のようなもの)】

私のポケットに長く仕舞い込んでいた作品です。ど
こに出すか悩んでいるうちに長い時間が過ぎてしま
いました。形式美作品+簡単という事で存在価値はあると
思います。

ひねくれた作品が多い私ですが、根は素直ないい人と
分かっていただけでしょうか？

【短評】

隅の老人 B

「アンチらしい手は最後だけ。それで、アンデパン
ダンへ。たくぼんさんは奥深い。」

★私の作品はほとんどアンチキルケらしくないとよく
言われます。

若林

「ここだけの話、ってオープンですが、同一図面が
手元にあって笑いました。」

★出すところが無くて困ったことでしょうか？

橋本孝治

「収束に非限定が発生しがちな2枚桂の追い手順で
すが、アンチキルケの性質を使えば、非限定なしで成
立させることができるということですか。普通のばか
詰では余詰や非限定になるけど、アンチキルケなら大
丈夫。そんな小ネタが、他にも結構転がっているかも
しれませんね。」

★アンチキルケの楽しさもたくさんの人に分かって
もらいたい・・・そう思います

小峰耕希

「桂一色図式+攻方2枚桂の三段跳び。普段なら悪くないけれど、定期開催ラストバッターとしては少々寂しい気も。あ、でもこれが無いと自作が最後になってしまって恐れ多いので、やっぱり本局は必要です！」
★トリではなくたまたま最後の作品です。小峰さんの作品が実質上トリでした。

小五郎

「桂一色で一見簡単そうなのですが、真ん中あたりで詰まそうとしたためかなり回り道をしてしまいました。」

★51に穴が開いているように見えるでしょ・・・
ふふふ

北村太路

「問題図見たら、5一で詰ませたくなったのですが、手をすすめたら、8一で詰みました。最後までたくぼんさんにはやられっぱなしだったなあ。」

★まだまだこれからもありますから・・・

もず

「なぜか最初は手順が見えませんでした。跳ね方が限定されるようにと考えるとこれ以外にないのですが。」

★桂が跳ねられるように逃げれば自然と解けるでしょう。

伊達 悠

「単純というと単純。しかし6三桂生でフェアリーになっている。」

.....
【解答成績】

解答者名	1	2	3
隅の老人 B	○	○	○
若林	○	○	○
橋本孝治	○	○	○
小峰耕希	○	○	○
小五郎	○	○	○
北村太路	○	△	○
もず	○	○	○
伊達 悠	○	○	○

△はFM使用解答

解答者数 8名 うち全題自力正解者 7名
☆全解者は7名と好成績でした。

.....
【総評】

隅の老人 B (7/8 10:46)

「ずっぷりとフェアリーに陥っている。たくぼんさんの作品展のおかげ?で、詰パラを考えるのは、最近15日過ぎになる。今回はいつもより易しく、早く終わって、さて、詰パラと思ったら、まだ九州Gの協力詰がありました。好きと暇とは、人一倍。でも、年のせいで根気が続かない。いつまで続くか、そんなことを考える、今日この頃です。」

★私の机の上には「好きでやっていることは苦勞ではない」という言葉が書いてあります。アンチキルケばかり詰作品展はまさにその通りでした。皆さんの投稿・

解答が楽しみでした。

若林 (7/10 4:17)

「まずはたくぼん氏、定期開催 10 回、おつかれさまでした。そして傑作を楽しませてくれた皆さんと自作に評価を下された皆さんに感謝。って紋切り型の挨拶ですが、素直にそう思います。特に創る方向では定期的に反応を頂ける場というのがこしかなかったんです。」

★とくにフェアリーの定期的な発表の場が少ないのは残念なことでしたが、このところいろいろな催しが開かれないと変わってきたなあという気がしています。

橋本孝治 (7/17 21:48)

「総評なし」

小峰耕希 (7/25 8:56)

「僕はこの作品展の影響で本格的にフェアリー創作を始めたので、定期開催最後に作家として参加出来た事はとても嬉しい。そういえば複数作を一度に出題して頂いたのも今回が初めてですね。これからも臨時開催があるよう、アンチキルケを作って行きたいと思う。」

★毎月開催は結構時間に追われるという点がありますが、今度からはじっくりと作品を創っていただき、出来たら投稿ということで素晴らしい作品をお待ちしております。

小五郎 (7/25 16:32)

「全 10 回の作品展お疲れ様でした。フェアリーの中でも結構特殊なこのルール、少しずつでも解答し続けられたのが不思議なほどです。これも日記上での親切な手ほどきや易しい 5 手詰からの作品群があったからだと感謝しています。私も第 2 回では何を間違ったの

か駄作を投稿、掲載して頂きました。酷評覚悟の上でしたが、新人ゆえか温かい短評を頂き良い思い出となりました。さよなら作品展、またきて作品展ということでこれからも楽しみにしています。」

★小五郎さんの 2 作目も首を長くして待っておりました。是非とも次回またきて作品展には投稿いただけるようお待ち申し上げます。

北村太路 (7/25 20:55)

「10 回で定期開催終了とのことでしたが、中 2、ア 2 とまだまだ捨てたものじゃないなあ、と思いました。すごいのがまだまだ全然眠ってそうですね。アンチキルケの火が消えないでいて欲しいものです。たくぼんさん、ひとまずお疲れ様でした。」

★北村さん PWC ばかりではなくアンチキルケも宜しくお願いしますよ。

もず (7/25 22:23)

「残念ながら全 10 回の皆勤はなりませんでした、全体を通して解図・作図ともに楽しませていただきました。特に、たくぼんさんには大変お世話になりました。PWC ばかり詰作品展もありますので、今度はそちらに注力していきたいと思います。今後ともよろしく願いいたします。」

★もずさんの好作群のおかげで当作品展は盛り上がったといっってよいでしょう。お世話になりました。

伊達 悠 (7/29 23:24)

「今回は総評は無しにします。本当にぎりぎりになってすみませんでした。それでは。」

”解答者が居てこそ成り立つ企画” そう思います。解答いただきました方に感謝いたします。ありがとうございました。